

エピソード

『アイスブレイク ベスト50』、いかがだったでしょうか？

この本に収められたアイスブレイクは、ミーティング・ファシリテーターの青木将幸が毎日のように実施してきたものから厳選して紹介しました。学校現場や会議、ワークショップなどで人前に立つみなさんに、ご活用いただけると幸いです。

まず、これらのアイスブレイクを教えてくださいました数多くの先輩方や、「アイスブレイク100連発！」講座に参加されたみなさんに、心より感謝申し上げます。本来であれば、一人ひとりのお名前を記載したいところですが、すでに大幅にアレンジを加えたものや、どなたに教わったのか不明確なものも多くあります。恐れながら、この場を借りて、感謝をお伝えいたします。本当にありがとうございました。

私がアイスブレイクを教わった先輩からいただいた宝物のような言葉を、いくつか紹介させてください。

野生動物などの自然解説をするインタープリテーション分野で活躍なさってきた故・小林毅さん(愛称：コバさん)からは、「僕はね、参加者にこっちを向いてもらえるんだったら、なんだってするよ。アイスブレイクに8割のエネルギーを割いていると言っても、過言じゃないんだ」という言葉をいただきました。コバさんは、クマやタヌキなど野生動物の話をする前に、参加者の興味を引きつけ、関心をかき立てるための工夫をたくさんなさっていました。大きな体をユーモラスに動かして、楽しそうに野生動物の魅力を伝えようとするコバさんのしぐさを、私は一生忘れません。あるいはコバさんの存在自体が、アイスブレイク的であったのかもしれませんが。

環境教育や環境コミュニケーションの分野で活躍なさっている川嶋直さんからは「アイスブレイクはね、たくさん知らなくてもいいんだよ。自分が使いこなせるものを2つか3つ、しっかりマスターしていればいいん

だ」ということを教わりました。実にそのとおりだと思います。数多く知っていることより、しっかり使いこなせること。この本でご紹介した50のアイスブレイクのなかから、みなさんのお役に立てるものが1つでも見つかりますように。

アドベンチャー教育に長年携わってきた難波克己さんからは「いきなり体を動かそうとか、みんなと交流しよう！とかって言われても、ちょっと唐突じゃない？ だからね、アイスブレイクのアイスブレイクが必要なんじゃないかな。よく参加者の様子を見てさ、みんなが自然と一歩を踏み出せるための工夫があると、いいね」といった趣旨の言葉をいただきました。

進行役が、「このアイスブレイクをしたら参加者はなごむに違いない」と思うのは、勝手な思い込みかもしれません。

唐突に行うのではなく、自然に行う。

無理やりやらせるのではなく、無理なくかかわる。

適切なものを選び、適度にやる。

このあたり、アイスブレイク道の奥深さを感じるところです。

また、この本で紹介してきたゲーム的なアイスブレイク以外のやり方でも、緊張をほぐし、その場に適した雰囲気をつくっていくことが可能ではないかと、最近思っています。ちょっとした声かけや、参加者の発言にどう反応するかで、みんなが笑顔になることがあります。部屋の雰囲気づくりを工夫したり、休憩時間の過ごし方に加減を加えたり、お茶やお菓子を交えることで、「自然流・アイスブレイク」が可能な場合もあるでしょう。このあたり、茶道や落語など、日本の芸事に通じるところがありそうで、研究を深めたいところです。

最後に、この本をつくるプロセスを伴走してくださった、ほんの森出版の小林敏史さんに深くお礼を申し上げます。小林さんは、本書の基となった『月刊学校教育相談』『アイスブレイク100連発！』の連載開始の2008年から、励ましの声を送り続けてくださいました。そのちょっとした声かけが、私の心を支えてくれました。